

ごみのリサイクル率アップのカギは紙ごみ

問まちづくり支援課 ☎ 6726

本市は、紙ごみのリサイクル率が県平均より下回っています。紙ごみの正しい分別は、リサイクル率の向上や二酸化炭素（CO₂）の排出量削減、焼却処理の減による焼却施設の延命化につながります。

この機会に、紙ごみについて見直してみませんか。市民の皆さんのご協力をお願いします。




紙ごみの種類

市で収集している紙ごみは、①紙製容器包装 ②紙パック ③段ボール ④新聞紙 ⑤雑誌・チラシの5種類に分別されます。中でも、紙製容器包装は種類が多く分かりにくいいため、燃えるごみとして捨てられがちです。



意外とリサイクルされていない紙製容器包装とは

紙製容器包装とは、マークのついている紙製の容器や包装のことです。例えば、●紙箱・紙製トレイ…お菓子や食品の箱や紙皿、ティッシュペーパーやたばこの空き箱など

●台紙…購入時のワイシャツの厚紙など

●紙袋・包装紙…紙製の袋、割り箸の袋など

※汚れているものや防水加工されたものはリサイクルできませんので、燃えるごみに出してください。



紙ごみをためておきたくない人へ
月1回の紙ごみの日以外にも出せます！

- 町内会、PTAなどの資源集団回収
- スーパーなどの店頭回収
- 古紙リサイクルセンター
(問) 榊遠藤商店 ☎ 234850

オフィス町内会をご存知ですか？
事業系の紙ごみを無料で回収します

県では、事業所から出る古紙を無料で回収し、リサイクルするネットワークづくりを進めています。詳しくはお問い合わせください。

問 オフィス町内会事務局 (榊遠藤商店 ☎ 234850)

「がんの時代を生ききる」～地域がん診療連携拠点病院から皆さんへ～

第1回

大腸がん

(全8回)

大腸がんの死亡率は男性で3位、女性で1位であり、県別にみると青森県はワースト1位です。

大腸がんの5年生存率は約70%と、他のがんに比べて決して低いものではありません。では、どうしたら大腸がんになっても、長生きできるのでしょうか。

それは、がんが進行する前になるべく早く対処することです。大腸がんの症状は、便が出にくくなる、便が細くなる、便に血が混じるなど、便に関する症状が多く見られます。その他にだるさ、発熱、おなかの張りなども見られます。しかし、それらの症状が出てから医療機関を受診したのでは、手遅れになることがあります。そうなる前に大腸がん検診を受けてください。

さて、大腸がんと診断された場合、どのような治療があるのでしょうか。小さながんであれば大腸内視鏡で観察しながら、切除することも可能です。しかし、内視鏡では切除できない大きさのものや、リンパ節転移や血行性転移（肺や肝臓、脳、骨など血液の流れが豊富な場所への転移）の可能性の

あるものは外科的に切除するのが最善の治療です。

大腸がんの手術は、がんから十分離れた距離で、リンパ節を含めて腸管を切除し、腸と腸をつなぎます。中央病院では、根治性を重視し、腹腔鏡を用いた手術や従来通りの開腹手術を行っています。肛門に近い直腸がんでは、なるべく人工肛門にならないよう放射線を併用した治療も行っています。

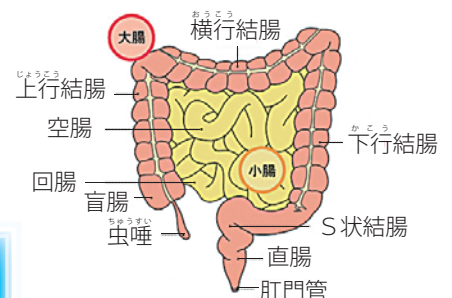
手術で取り切れない進行した大腸がんには、積極的に抗がん剤治療を行っています。以前に比べると格段に良い結果が出ており、つらい副作用も軽減されています。

大腸がんに関して、お困り、お悩みの際は当院消化器内科・外科にご相談ください。

(文責：中央病院 外科診療部長 杉田 純一)



大腸がん手術の様子



中央病院は、厚生労働省から質の高いがん医療を提供している病院「地域がん診療連携拠点病院」として指定を受けています。県内では3カ所のみです。